

軽音楽部マガジン

発行：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 配布：全国 2,140 校の高等学校軽音楽部



第9回 高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会より



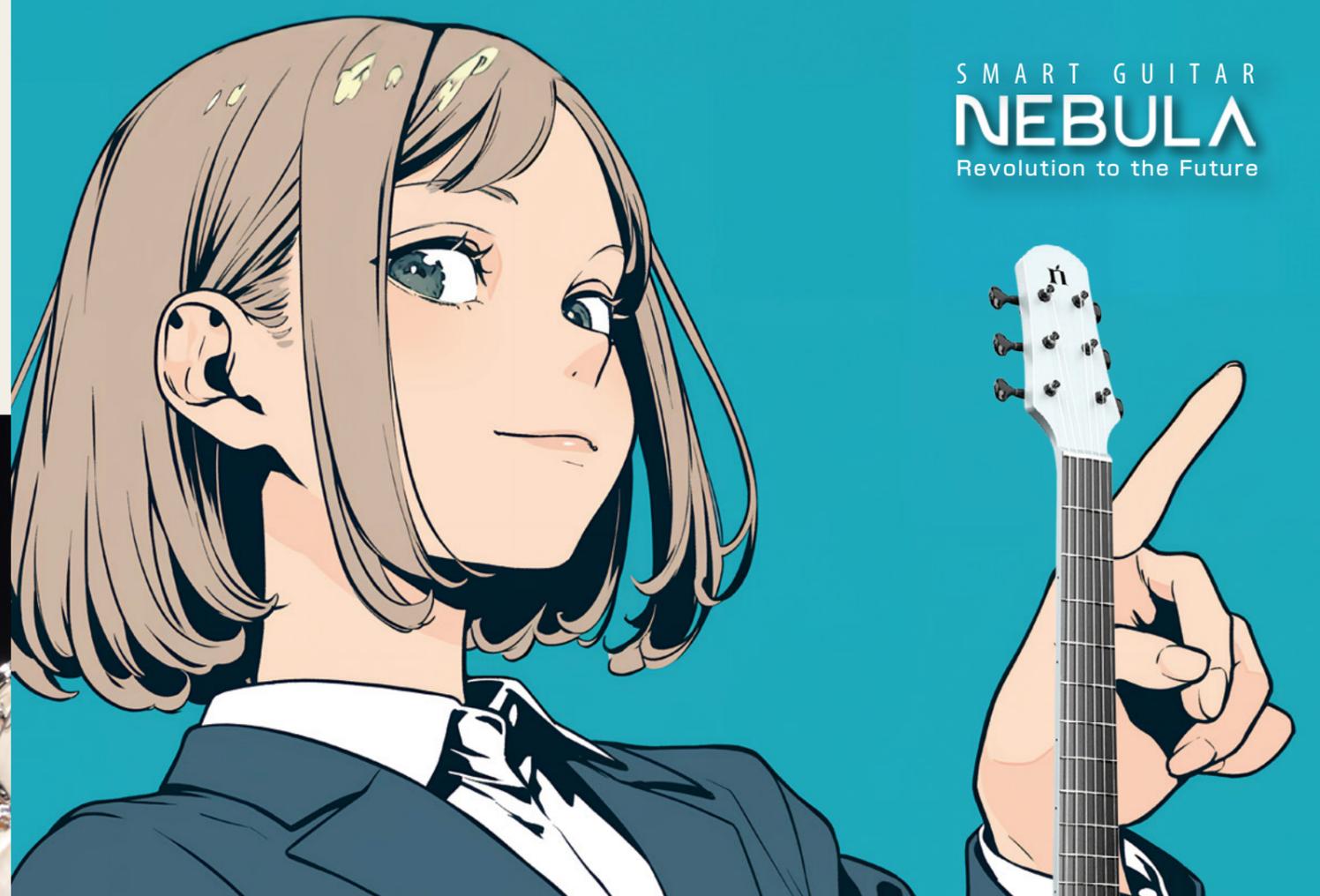
軽音楽部の本質が問われる夏のコンテスト

位置づけから見直す顧問の役割

中教審の方針に倣った生徒の「育成」を考える
大会には部活動としての学びが包含されている



軽音楽部マガジン
バックナンバー

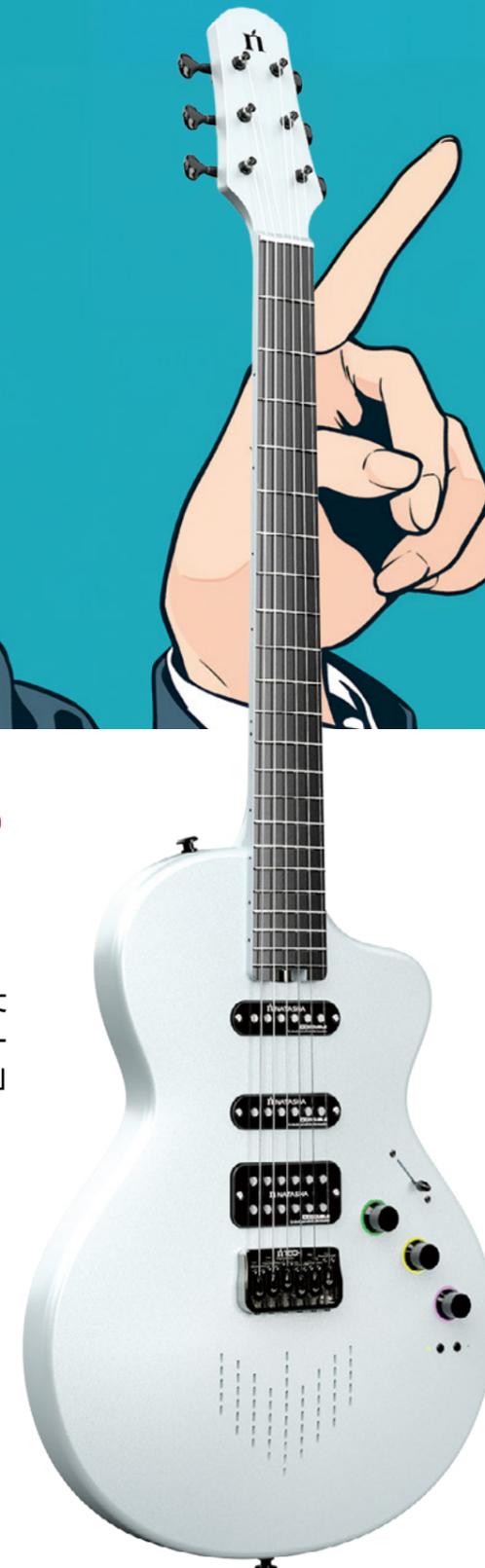


SMART GUITAR
NEBULA
Revolution to the Future

ヘッドフォンで演奏が楽しめる 軽音楽部にマッチしたギター

アンプへの接続はもちろん、ヘッドフォン端子やスピーカーを内蔵。軽く丈夫なカーボンファイバーを本体に採用し、多彩な音作りを実現するエフェクターやチューナー、メトロノーム、ルーパーを搭載。いつでもどこでも「弾きたい!」と思った瞬間に演奏できる、軽音楽部にマッチした SMART なギターです。

- スピーカー搭載で、面倒な準備をスキップ
- ヘッドフォンをつなげば、夜間の演奏も◎
- 豊富なエフェクト群を自由にカスタマイズ
- 演奏をサポートしてくれる様々な便利機能
- USB Type-C 対応でギターの録音が身近に
- 高温多湿に強く、軽量のカーボン材を使用
- 丈夫で使いやすい高機能なギグバッグ付属



定価：77,000 円 (税込)
高機能ギグバッグ付属



nebulaguitar.jp

全国約4,800校の 高校に軽音楽部を!

※現在、軽音楽部があるのは**2,140校**です (令和7年6月1日当協会調べ)

軽音楽部の諸活動を通して若者の成長を応援しています

1 軽音楽部の正しい理解を

軽音楽部は部活動としての歴史が浅く、ポピュラーミュージックやバンドへの偏見も一部に残っており、正しく理解されていないのが実状です。STEAM教育の一端として、軽音楽を通じた部活動の有意義さや得られるものなどを学校内外へ広めていきます。

2 軽音楽部の全国普及に向けて

学校教育の一環である部活動のひとつとして、軽音楽部が全国の学校に設立されることを目指し、日々の練習や演奏会のサポート、楽器や機材の相談、各種クリニックや大会の開催など、諸活動をバックアップしていきます。

3 新しい活動の提案と支援

デジタル化、IoT化による現代的な楽器や機材、DTMの普及による新しい軽音楽のスタイルなど、今と未来に見合った活動を各業界とのパイプ役として軽音楽部に提案、支援しつつ、軽音楽のポップカルチャーとしての発展を目指します。

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております
詳しくはこちらまで…



特別賛助会員の皆様 (敬称略/順不同)

株式会社ミュージックネットワーク	ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	フェンダーミュージック株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家 (モアリゾート、ホテル寺尾温泉)
日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校	有限会社ユイネ (音楽ロッジ ゆうげん荘)
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社サウンドハウス
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社池部楽器店
名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校	

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



軽音楽部マガジン

令和7年6月号 VOL.86

■軽音楽部マガジン VOL.86 ■創刊：平成25年12月18日(水) ■第14巻6号通巻86号
■監修・発行/特定非営利活動法人(NPO法人)全国学校軽音楽部協会 JASLMC (Japan Association of School Light Music Club)
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-37-6-405 TEL: 045-913-0901 FAX: 045-913-1900 E-Mail: info@keionkyo.org
■企画・編集/株式会社ミュージックネットワーク

コンテストは成長の糧	軽音楽部の本質が出るコンテスト.....4 特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之
学校教育の視座	位置づけから見直す顧問の役割.....6 音楽家・日本活動学会 理事 長野いつき
軽音楽部の可能性	中教審の方針に倣った生徒の「育成」を考える.....8 特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 副理事長 辻 伸介

大会には部活動としての学びが包含されている.....10
FENDER® YOUTH MUSIC PROGRAM.....12
NEBULAを知る②.....14
軽音協ニュース.....18

音楽/エンタメ業界の仕事 2025

照明 日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校.....20
サウンドクリエイター 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー.....22

From Chief-In-Editor

軽音楽部が育む「自己実現」のステージ

軽音楽部の活動の中で、特に「バンド」という形態は、まさにチームでクリエイティビティを発揮する場です。異なる楽器を演奏するメンバーが、それぞれの個性を持ち寄り、1つの楽曲を創り上げていく過程は、まさに集団で最適解を求めていく行為に他なりません。音の重なりやリズムの絡み合い、メロディの調和。これらはすべて、メンバー間の密なコミュニケーションと、お互いの音を尊重し合う心から生まれます。時には意見が衝突することもあるでしょう。しかし、その1つ1つを乗り越え、より良い音楽を追求する過程こそが、バンドを1つにまとめ上げ、一体感を生み出す原動力となります。その集大成として位置づけられるのが、コンテストやコンクールです。もちろん音楽や芸術に優劣をつけること自体、本質的にはナンセンスなことかもしれません。しかし、目標に向かって、バンドが一丸となって練習に励み、最高のパフォーマンスを目指すプロセスには、計り知れない教育的意義が込められています。

心理学者のマズローが提唱した「欲求5段階説」の最上位に

位置する「自己実現の欲求」。軽音楽部でのバンド活動、そして、コンテストへの挑戦は、まさにこの自己実現の欲求を満たす素晴らしい機会となり得ます。仲間と共に1つの目標に向かって努力し、自分たちの表現したい音楽を追求する。そして、それを大勢の前で披露し、聴衆と感動を分かち合う。この一連の経験は生徒たちにとって、かけがえのない財産となるでしょう。

夏休みは、多くの軽音楽コンテストが開催される時期です。この時期だからこそ、私は勝利至上主義に陥ることなく、部活動が本来持っている教育的意義を再確認して欲しいと願っています。コンテストでの結果ももちろん大切ですが、それ以上にバンド活動を通して得られるコミュニケーション能力や問題解決能力、協調性、そして、何よりも自己を表現する喜びこそが、正解のない時代を生きる生徒たちにとって、最も重要な学びとなるはずで

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之

コンテンツは成長の糧

軽音楽部の本質が問われる 夏のコンテスト

二谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
理事長

これから夏休みを迎え、全国各地で専門部／連盟主催や民間主催の軽音楽コンテストが数多く開催される時期となります。日頃の練習の成果を発表する場として、また、部員たちのモチベーションを高める機会として、これらのコンテストには一定の意義や賛否があります。そこで、この時期だからこそ、今一度、学校教育の一環としての軽音楽部の「本質」について考えたいと思います。

コンテストは部員たちが目標を設定し、それに向かって努力する原動力となり得ます。しかし、とすれば、「勝利至上主義」に陥り、本来の教育的価値を見失ってしまうケースも散見されるのが現状です。芸術や音楽に絶対的な優劣をつけることの難しさを認識しつつ、部活動はプロのミュージシャンを養成する機関でも、登竜門でもありません。学校教育における部活動とは、単に演奏技術や作曲技術の向上のみを目的とするものではないと思います。仲間と共に試行錯誤し、多様

な意見を交わし、活動の幅や内容を自らの手で作りに上げていく過程にこそ、その真の価値があります。残念ながら、現状の軽音楽部の活動においては、こうした教育的視点が見落とされ、コンテストでの結果ばかりが重視されるケースもあると耳にします。そこで本稿では、コンテストの位置づけを再考し、日々の部活動にこそ意味があるという視点を持つて指導する際のいくつかの視点を提示したいと思います。

1

コンテスト選定の羅針盤 …教育の場としての部活動

夏休みを控えて、数多くの軽音楽コンテストが開催の準備を進めています。この時期、顧問の先生方は、部活動の活動範囲に相応しいコンテストであるかどうかを慎重に見極める必要が出てくると思います。一口に「コンテスト」と言っ

ても、その趣旨は多岐に渡ります。中には、未来のアーティストを発掘するオーディション的な要素が強く、プロのミュージシャンを目指すエンターテイメント性に特化したコンテストも存在します。こうしたコンテストは、一見すると華やかで、部員たちの期待を刺激するかもしれませんが、その根底に学校教育という基盤があるのかどうか、検討の余地が残ります。一概には言えませんが、エンターテイメントが前面に出過ぎていくコンテストは、往々にして教育的な配慮が希薄になりがちです。

一方で、専門部／連盟や当協会が主催するコンテストは教育をベースに据えています。これらのコンテストは派手さに欠けるかもしれませんが、部員たちの成長を促すための教育的な視点が随所に盛り込まれていると思います。顧問の先生方は、生徒が持ち込んだコンテストに無制限で応募せず、そのコンテストがどのような趣旨のものであり、普段の指導方針、そして、何よりも学校教育の一

せん。部活動の目的を見失うことなく、参加するコンテストを適切に選ぶことが、これからの軽音楽部の健全な発展には不可欠であると思います。

2

芸術に優劣なく …プロセスに宿る教育的価値

そもそも芸術や音楽に明確な優劣をつけることは極めて困難であり、ある意味でナンセンスであると思います。音楽は聴く人によって感じ方が異なり、同じ人であっても、その日の気分や体調によって受け止め方が変わる、極めて感性の強いものです。そのような領域において、順位をつけることに、どれほどの教育的意味があるのでしょうか。もちろんコンテストという形式を取る以上、どうしても優劣はついてしまいます。しかし、重要なことは、その「優劣」に一喜一憂することではなく、その過程から何を学び、何を次へとつなげていくかという点にあると思います。

生徒たちに順位付けの相対性を理解させ、結果のみに囚われない姿勢を伝えることが大切です。コンテストは、例えるなら「腕試し」のような感覚で臨むことが望ましいと思います。日頃の練習の成果を出し切り、自分たちの音楽を表現する場として捉え、その結果を楽しむくらいの気持ちでいることが、心の健康にもつながるものと認識しています。そして、何よりも重要なのは、そのコンテストに

臨むまでの「プロセス」にこそ、軽音楽部の活動の真の教育的価値が宿っているのではないのでしょうか。

当協会では、軽音楽部の特徴として、コミュニケーション、クリエイティブ、そして、チームワークの3つを挙げています。コンテストに向けてバンドメンバーで楽曲を作り上げる過程では、活発なコミュニケーションが不可欠です。オリジナル曲であれば、それぞれのアイデアを出し合い、試行錯誤しながら創造性を高めていきます。コピー曲であっても、自分たちらしいアレンジを加えたり、解釈を深めたりすることで、創造性を発揮することが出来ます。そして、それぞれのパートで地道な練習に励み、全体として調和の取れた演奏を目指すことこそ、まさにチームワークの結晶だと考えられます。これらの要素が密接に絡み合い、1つの音楽を作り上げていく過程こそが、部員たちの人間的な成長を促す貴重な経験になるものと思います。したがって、コンテストにおける勝ち負けという表面的な結果よりも、コンテストに臨むまでのプロセスの過程で培われるコミュニケーション能力、創造性、そして、チームワークこそが、生徒たちの成長を大きく促すと考えています。ここに、学校教育の一環としての部活動の存在意義が示されるものと思います。生徒たちが主体的に考え、行動し、仲間と協力して困難を乗り越える経験は音楽的な技術の向上に留まらず、社会で生き抜くための汎用的な能力を育むことにつながるでしょう。顧問の先生方には日々の練習の中で、こ

のプロセスに焦点を当て、生徒たちが自ら考え、行動できるような指導⇨コーチングを期待しています。

3

コンテストは「終わり」ではなく「始まり」 …教育的評価の視点

教育的視点から軽音楽部のコンテストを捉え直すと、大会当日の結果発表、つまり、審査発表があつてからが、実は最も重要なフェーズであると思います。一般的には、コンテストの審査発表ですべてが終わった…と思われがちです。しかし、教育的な観点から見れば、審査発表は決して「ゴール」ではなく、むしろ新たな「スタート」だと思えます。専門家である審査員の方々から見た自分たちの演奏が、どのように評価されたのか。入賞できなかった場合、それはどのような理由によるものだったのか。生徒たち自身がこれらの評価をどのように受け止め、分析するかが極めて重要です。その分析結果を明日からの活動や練習にどう活かしていくかを考えるきっかけとすることが大切と言えます。また、大会を通して、同じ年齢の他校の生徒たちの演奏を耳にしたばかりであるからこそ、彼らと比較して自分たちが勝っている点、あるいは足りない点はどこなのかを具体的に考え、今後の活動につながるものが大切ではないでしょうか。つまり、コンテストは審査発表で終わるのではなく、審査発表か

らのスタートであるという捉え方こそが、教育的に望ましいと言えらると思います。

コンテストがエンターテイメント性や勝利至上主義に強く傾倒していると、審査発表は「ゴール」であり、そこですべてが終了してしまいます。しかし、教育的な視点に立てば、審査発表は「始まり」です。得られた評価や気づきを糧に、次なるステップへと踏み出すための出発点となるべきであると思います。例えば、審査発表後、生徒たちに「今の演奏で、一番良かったと思うところはどこでしたか?」「もしもう一度演奏できるとしたら、どこを工夫しますか?」といった問いかけをする方法もあるでしょう。あるいは「他のバンドの演奏で、自分たちのバンドに取り入れたいと思ったことは何でしたか?」など、具体的な視点を与えることで、生徒たちは自然と内省し、次へとつながる思考を始めることになるのではないのでしょうか。

このように、結果を単なる勝ち負けとして終わらせるのではなく、学びの機会として最大限に活用することこそが、軽音楽部の活動の教育的価値を高めることにつながるものだと考えます。軽音楽部は生徒たちが自ら音楽を創り、表現し、仲間と協力して1つの目標に向かう、類まれな教育の場です。この貴重な機会を最大限に活かすことが、部活動の真の意義につながると思います。

今年の夏のコンテストの審査発表の後、あちらこちらで生徒の自主的な反省会やお互いに振り返り返る様子が見られることに期待したいと思います。

位置づけから見直す 顧問の役割

長野いつき

音楽家・日本部活動学会理事

長野いつき

大阪教育大学大学院修了。専門は、作曲、音楽教育。第11回 高等学校軽音楽コンテスト 中部大会（本年3月）などコンテンツ審査員などを歴任。日本部活動学会理事（発足2017年～）。日本部活動学会事務局次長（2024年～）。

部活動は、教育課程の外側にあるが、その存在感や割く時間は大きい。軽音楽部の顧問の先生方は、生徒とどのように関わっているだろうか。音楽スキルに拠らずにできる役割を考えていく。

学習指導要領との関係

中学校や高等学校の部活動は、学習指導要領において、次のように定められている。

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域

の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

つまり、部活動は、あくまで生徒側の任意によって行われる活動である。入る動機に乏しければ、参加しなくても構わないともいえる。

一方で、「自主的、自発的な参加により行われる」点は、大学のサークル活動、民間のカルチャースクール、公民館等で行われる諸活動と同様だ。例えば、大学のサークル活動は、多少の便宜を大学が図ることはあれど、基本的に、活動目標や活動頻度、予算、内容など、殆どの場面を、集う学生同士が取り決めて運営している。活動内容に教育的意義を求めず、娯楽活動に振り切っても良い。

しかし、中学や高等学校の部活動では、

（注1）高等学校学習指導要領 第1章 総則。中学校学習指導要領第1章 総則にも同文がある。

（注3）日本部活動学会第6回大会内自由研究発表「高等学校軽音楽部活動の大会成績と活動実態の関係の考察」

（注2）平成十年告示より前の学習指導要領に示されていた「必修クラブ」を含む。

顧問の先生方の役割

顧問の先生方に、事務的な手続きの他に、期待される役割は、次の二点であると、筆者は考える。一点は、安全管理、もう一点は、人間関係の調整だ。

音楽系部活動における安全管理と言われても、想像が難しいかもしれない。軽音楽部の活動に起因する事故の報告例は、筆者の調査の限り少ないようだ⁴。とはいえ、学校における音楽活動全般に視野を広げると、楽器や機材の運搬中の事故、

固定の不備による物品の転倒や落下に巻き込まれる事故はある。軽音楽部で使う楽器や機器は、電源を要するものが多いが、配線等に誤りがあると、発煙に至るおそれがある。事故防止のため、機器の取扱説明書を生徒と確認し、平素より安全な使用を指導する。また、過度な演奏練習は、身体にも負荷をかける。生徒が部活動に熱中していたとしても、時には活動に歯止めをかけることも必要かもしれない。



もう一つ挙げた、「人間関係の調整」について補足する。学校生活全般でもそうだが、部活動は集団活動が多い。「軽音楽部」の括りで任意参加している集団とはいえ、どうしても人間関係のトラブルは生じ得る。こうした対応については、普段から学校生活で生徒と広くかかわっている現場の先生方の強みであり、外部指導者等が容易に担えるものではないかもしれない。

平素から大勢の生徒を相手に教鞭を取り、学級をまとめ、時には悩み等にも教員個人、あるいはチームと

して臨んでいる現場の先生方ならではの専門性を発揮できる範疇であると考えられる。言い換えれば、卓越した音楽スキルをもっている、部活動に関わる指導者としては、完全ではないだろう。

ところで、いくら、顧問の先生方には、音楽の専門性は要らないといっても、日々切磋琢磨している部員と共に音楽的なことで悩むことはあるかもしれない。

前提として、部活動において、顧問の先生が音楽の専門的指導を、部員に手取り足取りする必要はないと筆者は考える。それでも、人生経験の厚さによる視野の違いと、教育課程、特に教科教育内容との紐付きの二点を踏まえた助言はできるかもしれない。

特に後者は、先生方によって専門が様々だが、現場の先生方の目線で、ご自身の教科だけでなく、ぜひ現在の音楽の教科書事情を頭の片隅に入れておくとう用だろう。教科書会社によって差はあるが、現在の音楽の教科書には、国内外のポピュラー音楽史（ロックも含む）、バンドアンサンブル、ロックやジャズなどの歌唱実技なども盛り込まれている。また、オリジナル曲制作の素地になるような創作の単元もある。

そして、この内容を、ぜひ軽音楽部の顧問の先生方の立場で読んでいただきたい。すると、高校生では気が付かない視座で読み取れることもあるだろう。また、高校の教科書では、「デイレイ」「イコライザー」などといった用語は出ている

が、その具体、特に数値に関することまでは詳述されていない。ただ、こうしたエフェクト類も、高校程度の理科や数学の知識を応用すると、論理的に設定できるようになる。そうした教科横断的な思考を、先生方なら、見出せると筆者は考える。冒頭に述べたように、部活動は、「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること」が求められること、こうした視座を働きかけることで、高度な音楽スキルとは別の次元で、「教育課程との関連」を達成できる可能性があると考えている。こうしたことは、音楽の先生でなくともできる助言、あるいは部活動の「コーチング」と言えよう。

先に、顧問の先生方の音楽経験の有無は、コンクールにおける入賞結果との有意な相関性を見いだせなかったことに触れたが、同調査では、実技練習の長短よりも、活動そのものの多様性、例えば諸理論の座学、他ライブ、動画鑑賞等への取り組みが有意に作用していることが判明した。ここに挙げたような、音楽の先生でなくとも行える支援によって、活動の多様性を広げることが、結果的に生徒の音楽力の向上に資する可能性もある。

改めて、顧問の先生方には、安全管理と人間関係調整、そして教科横断的視点での活動多様化支援が肝要だろう。生徒の自主性を尊重し、教育課程との接続を意識した関わり方こそ、部活動の真価を発揮させる。

（注4）「学校等事故事例検索データベース」（日本スポーツ振興センター）に拠った

（注5）楽器を抱えることによる腰椎等への負荷、演奏の際に特定の部位を高速で反復運動させることによる「オーバーユース」、大音量に晒され続けることによる音響外傷等のリスクなどが挙げられる。

軽音楽部の可能性

中教審の方針に倣った生徒の「育成」を考える

辻 伸介

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 副理事長

文部科学省に設置されている諮問機関である中教審（中央教育審議会）から、令和3年1月に「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」という答申が出されました。この答申では多岐にわたる方針が示されていますが、マクロな視点からではなく、軽音楽部において…という現場に近いミクロな視点で考えてみると、中教審が示すこれからの日本の教育現場での「育成」に見合う部分が多いことが気がつきます。

す。個別最適な学びとは、個に応じた指導を学習者の視点から整理した概念としています。

軽音楽部は「自立・協働・創造」

長年、音楽専門学校の講師をしてきたとはいえ、教員ではない私が日本の教育方針全体を語るのには大変差し出がましいことですので、話を部活動、さらには軽音楽部に絞りたいと思います。

ご存知のように、現在日本の教育は部活動においても大きな転換期にあり、教員の働き方改革は部活動の時間短縮や地域移行、指導員不足へと懸案事項が波及しています。考えてみれば、運動部を中心とした現在の部活動の在り方は、個や多様性よりも組織帰属意識や勝利至上主義が優先されてきたことから様々な問題が生まれているのではないのでしょうか。スポーツや芸術を通してチームワークや創造性を育み、先輩や仲間との人間関係の中から社会を学んでいくことは、部活動に求められている大きな目的の一つです。そういった意味では、部活動は学校の中で時代に即した社会経験がより多く

できる場であるべきだともいえます。軽音楽部は、1つの部活動の中でバンドというチームに分かれ活動します。運動部のように、監督の指導のもとに統率されていたり、他の音楽部のようなディレクター的立場の指揮者はいません。個性をぶつけ合いながら演奏をまとめていく工程は、まさに社会の縮図です。自分の意見を持ち、伝え、他者の意見に耳をかし、トライアンドエラーを繰り返しながら集団で何かを作り上げていくことこそ、教育振興基本計画の理念である「自立・協働・創造」に当たります。

何度か本誌に寄稿し、折に触れ発言してきましたが、当協会が掲げている「軽音楽部はコミュニケーション、チームワーク、クリエイティブ、そして表現力を育むことができ、社会に出てから必要とされるこれらのスキルを音楽やバンド活動を通して学ぶことができる部活動である」という考えと、中教審の答申と

「教育」から「育成」への転換

中教審が目指す、「令和の日本型学校教育の構築」には多岐にわたる項目がありますが、最も重要なのは、全員が同じペースで同じことを学ぶというこれまでのスタイルから、個に応じた学びや多様性のある「個別最適な学び」に転換していくといった内容が明記されていることです。

現行の学習指導要領では、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用する新たなICT環境（※1）を整えたGIGAスクール構想（※2）の実現が示されています。また、主体的・対話的で深い学びを実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開していくことが、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿であり、教育振興基本計画の理念の継承であるとしています。

現在の学習指導要領では、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用する新たなICT環境（※1）を整えたGIGAスクール構想（※2）の実現が示されています。また、主体的・対話的で深い学びを実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開していくことが、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿であり、教育振興基本計画の理念の継承であるとしています。

は合致するところが多いと感じます。

未来の教育像によく似た軽音楽部

近年では、先行きが不透明で予測困難なVUCA時代（※3）を生き抜くためには、変化に適応する柔軟性、情報収集力、分析力、問題解決能力などが重要であるといわれています。また、到来する

Society 5.0社会（※4）に対応できる教育として、リアルな体験を通して学ぶことの必要性が高まっています。

中教審は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が大事だとされています。個別最適な学びが孤立した学びにならないように、集団の中で個が埋没することのない姿を目指すには、探究的な学習や体験活動を通して、生徒同士、あるいは多様な他者と協働しながら、それぞれの良い点や可能性を活かすつつ、他者を価値ある存在として尊重することが重要であると答申の中で明記しています。それは、まさに軽音楽部の姿を思い浮かべさせます。

デジタル化が活動拡張につながる

GIGAスクール構想は、現在では個々への端末配布と高速大容量の通信ネットワークのインフラ整備の低調、教員のデジタルリテラシーの遅れなどから、現在はまだ消極的な使用がほとんどだといわれています。

しかし、部活動では積極的にパソコンやインターネットを活用することが可能です。校則で、校内では個人のスマートフォンやパソコンが使用禁止である学校もまだ多いと聞きますが、部活動についての規制緩和は今後強まっていくと思われます。パソコンをメインに使う科学部やeスポーツ部ではなくとも、試合や部員などの様々なデータ管理、備品や部費の管理などにも有効です。軽音楽部でも、部員やバンドの情報、部費の管理、練習場の使用状況、機材の故障や使用状況、作品の管理、部員同士や顧問との連絡、演奏会や大会エントリー資料のやり取り

など、日々の活動に役立ちます。もちろん、楽曲創作や音源&動画制作といった創作活動においても、デジタル化、ネットワーク環境の進歩によってシステムやデバイスは簡素化され、高校生でも気軽に取り組めるようになってきています。また、日々の活動にもデジタル化された機材を使うことで、騒音問題や練習場所の確保といった諸問題の解決につながります。日進月歩で進化する楽器・機材の情報収集も、コスト削減や活動の拡張のためには重要です。

一方で、そういった専門的な分野の指導者不足という声もあると思います。部活動としては、先輩が後輩に様々なノウハウを伝えていくことが目指すべき姿であると考えますが、何事にも初動は必要です。たまたまパソコンやDTMが得意な部員や機材に詳しい部員が入部してきたことによつて部内に広まった、という話も聞きますが、そういった偶然を待つだけではなく、地方公共団体・企業、高等教育機関、国際機関、当協会のようなNPOなど、多様な関係機関との連携・協働も大切だと中教審は示しています。お困りの際はぜひご相談ください。

中教審が示す、新しい日本の教育の姿を、部活動から進めていくという発想も間違っていないと思います。そして、その最先端を進むのは「育成」を土台に活動することができる軽音楽部しかないと思います。



文化部は、ジェンダーや学年を飛び越えた活動が可能で、軽音楽部では、モチベーション維持や最後までやり遂げることに由来する学びとして、仲の良い同年同士でバンドを組み、引退まで一緒という形が一般的です。しかし、それだけが正解ではありません。ジェンダーレスや異学年間の交流によるバンド活動は、大きな経験となります。中には、ライブごとにバンドを組み直すシステムをとっている学校も少なく

※4 Society 5.0社会：狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（同2.0）、工業社会（同3.0）、情報社会（同4.0）に続く社会。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合したシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。

※5 STEAM教育：Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）の5つの分野を横断的に学ぶ教育。

※1 ICT:Information and Communication Technology. 情報通信技術の略称で、情報処理と通信技術を組み合わせた技術のこと。IT（Information Technology）と異なり、通信によるコミュニケーションの重要性を強調、ネットワークを利用した情報共有を重視。

※2 GIGAスクール構想：Global and Innovation Gateway for All. 令和元年に開始された、全国の児童・生徒1人1台のコンピュータと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組み。

※3 VUCA時代：Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）が特徴的な、先行きが不透明で予測が困難な時代のこと。

大会の意義

大会には部活動としての学びが包みこまれている

辻 伸介

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
副理事長

夏は多くの部活動にとって大会シーズンです。軽音楽部でも大会やコンテストが目白押しですが、一発勝負の競技形式では、日頃の練習の成果を存分に発揮し、悔いのない演奏を目指すことが目標となります。当然ながら、そのためには練習の質や量、体調管理、メンタル面のコントロール……と、多くの事柄への指導が必要となりますが、もっと具体的に音響スタッフとの連携や、本番のシミュレーション、楽器・機材に対する危機管理などを考えさせることで、単なる準備に終わらない学習活動となります。大会は、その準備自体に部活動として有意義な学びを包含しているのです。

大会は社会性を学ぶことにつながる

大会のような大きなステージで演奏することや、予選へのモチベーションを維持させることなど、普段では味わえない緊張感、生徒にとって良い経験のチャンスです。大会というものを、単なる順

位争いや腕試しの場とするだけでは少しもつたないような気がします。

顧問の先生方の中には、大会に向けてどういった指導が望ましいのかを悩まれている方も多いかもしれません。もちろん、一段高いステップへ歩を進める生徒に対しての教育的指導や生活指導は、現場の先生方にはご専門中のご専門だと思いますが、こと音楽の大会に関しては経験や知識が不足している……とおっしゃる方もおられると思います。

簡潔に言えば、音楽の大会前の準備とは、他のことと同様に不安材料を取り除いていくことがメインです。しかし、それが生徒たちにとって、話し合い、協働、リスクヘッジといった社会性を学ぶことにつながっていきます。逆にいえば、きちんと準備をしてきたかどうかで結果が決まるのであり、思うような結果にならなかったのであれば、どこに準備不足があったのかと、次へのステップにつながる大会参加の最も大きな学びとなるのではないのでしょうか。

提出資料はバンドのプロフィール

まず、最もご指導いただきたいのは、演者とスタッフとの連携に関してです。特に、ポピュラーミュージックのライブでは、演者と音響スタッフは良いステップを作るためのパートナーであり、共同作業を行なう同志です。それは、軽音楽部の大会でも変わりません。ライブが主催側及びスタッフとの「協働」であること、自分たちのやりたいことを実現するには、他者や周りの協力がいるのだという認識を持つこと。それが、大会に参加する際に学んで欲しいことの1つです。

音響側との連携は、資料提出の段階から始まっています。一般的な大会では、楽曲を演奏したデモ音源とセットティングシートを事前に提出します。音響スタッフにとっては、そのバンドがどんな演奏をするのかを知る唯一の手がかりとなります。資料は大会参加への形式的なものではなく、自分たちを知ってもらうため

の大切なプロフィールです。不備や提出の遅れがあれば自分たちにその代償が返ってくるようになります。

提出資料の作成は、当事者である責任感や音響スタッフとの協働意識を持たせるためにも出演者自身が行い、締め切りを守ることも大切です。もちろん、最終的には顧問のチェックが必要ですが、セットティングシートの書き方やデモ演奏の録り（撮り）方などは、先輩が後輩へアドバイスする流れを作ることが部活動として理想です。ぜひ、資料作成のノウハウも伝統として引き継いでいっていただきたいと思います。

準備のための準備が目標への道筋に

では、もう少し具体的な準備と方向性についてお話ししたいと思います。

まずは、演奏前に行うサウンドチェックに関してです。サウンドチェックは、事前に提出されたセットティングシートをもとに行われます。違う部分があれば、音響チー

ムや進行の遅延を誘発することになります。サウンドチェックは練習時間ではなく、本番に向けての最終確認の場です。準備のあるサウンドチェックの意味と、その準備のための準備を知ることが、目標達成への道筋となります。

本来、個々の楽器の音作りや各パートの音量・音色バランスは自分たちで行うものです。特に、大会ではメインミキサー卓を操作するPAエンジニアは、公平性を期するために各楽器の音量バランスや音色を積極的に調整しないことが一般的です。普段から、良いサウンド、全体のバランス、ダイナミクスを心がけた練習をしていないと、トータルサウンドは良くありません。音響チームへのクレームが的外れな場合もあります。

また、サウンドチェックでは、演者はモニタースピーカーの調整を行います。ステージ上の音（なかおと）を好みに合わせることで演奏をしやすいとする大切な準備です。メンバーごとに設置されたモニターピーカーに対して、それぞれが音響スタッフに注文を出していく形になるので、普段の練習からモニタースピーカーを使って、その必要性や調整の仕方、好みなどを把握しておかないと本番のステージで慌ててしまいます。

特に、ボーカリストはモニター次第で歌いやすさが大きく変わります。普段の練習にボーカリスト用、コーラス用のモニタースピーカー導入は不可欠です。

予行演習と意見交換が批評力を養う

次に、本番に向けてですが、本番は誰でも緊張するものです。適度な緊張感も集中力を高めるためにも必要ですが、慌てたり焦ったりするような過度の緊張は、演奏に悪い影響を及ぼしてしまいます。緊張を和らげるためには、本番の状況を具体的にイメージしながら、セットティングから演奏、片付けまでの流れを事前にシミュレーションしておくことが効果的です。

軽音楽部の大会では転換や演奏時間に制限が設けられている場合があり、特に転換時のセットティングにどのくらいの時間がかかるのかの確認は必須です。必要以上に時間がかかるのであれば、その原因を探って、スムーズに行えるまで繰り返しすることが大事です。

そして、演奏もステージングも含め本番のつもりで本気で行って、時間計測の他、何か不備がないかを確認します。演奏前のMCや、そこから演奏に入るタイミング、エンディングの挨拶、衣装はプレイに支障が出ないか……など、本番さながらの予行演習をしておくことで、当日も平常心が保て、リラックスした状態で本番を迎えられます。

ポイントとは、必ずメンバー同士で話し合いをすることです。顧問やコーチ、先輩などが「もつとこうしなさい」と教えてしまうことは簡単です。しかし、自分で気づかなければ、本場の意味で改善になりません。本番のステージ上には助け

てくれる人はいません。自分たちでベクトルを尽くせられるように普段から「失敗」を経験しておくことが大切です。

動画を撮って、全員で鑑賞しながら意見を言い合ったり、部のバンド同士で意見交換したり、先輩からアドバイスももらう会を開くなども、部活動ならではの有効な手段です。批評する力、指導する力が養われます。

「経験の伝承」をするチャンス

最後に、機材面に関して「もしかしたら……」と危機管理のアンテナを張ることも大切な事前準備の1つです。特に、経験の浅い初心者にはどんな備えが必要なのかさえもわからないことが多いと思います。ここでもやはり、部活動であることを活かして先輩から後輩にアドバイスをする流れを作ることが望まれます。

中でも、消耗品である電池や弦、ピック、シールドケーブル、スティックなどの予備、マルチエフェクターやキーボードのデータバックアップなども欠かせません。もちろん、楽器のメンテナンスなどは早めに行っておき、症状が重い場合は楽器店に相談しなくてはなりません。

備えあれば憂いなし……は、経験がものをいいます。テクニクや部の方針だけではなく、音響スタッフとの連携、本番のシミュレーションに関する注意、機材や備品のチェック、予備の大切さなど、先輩から後輩へ「経験の伝承」を強化する機会としても、ぜひ大会を利用していただきたいと思っています。





活動こそ、音楽芸術分野こそ、これからの「正解のない時代」に必要なことが学べる部活動だと確信しております

音楽やバンド活動を通じて生徒が主体的に学べる環境は、これからの時代に非常に価値のあるものと私たちも信じています。軽音楽部では、オリジナル曲の制作をはじめとした自己表現力や創造性、仲間とのチームワーク、そして責任感や継続力を養うことができると考えています。また、さまざまな音楽やバンドスタイルに触れることで多様性への理解も深まり、さらに活動を通して得られる達成感は大きな自信にもつながるでしょう。こうした経験を通じて、将来社会に出たときにも役立つ多くのスキルを身につけられると考えています。また、スマートフォンやデジタルコミュニケーションが主流となっている今だからこそ、軽音楽部は、バンド仲間同士のつながりだけでなく、演奏を通じて、観客と向き合うといった「リアルな場で人とつながることの大切さや楽しさ」を実感できる大事な体験にもなると思います。誤解や偏見が払拭され、より多くの学校に軽音楽の可能性が広がることを心から願っています。

● 正式に部活動として認められない学校も多いのですが…YMPを皮切りに、軽音楽部の普及に力を貸してください

「Fender® Youth Music Program」はその第一歩として、多様な学びの機会と価値を、届けることを目指しています。これをきっかけに、教育の一環としての軽音楽活動が、より多くの場所で根付くよう、私たちも継続的にサポートしていければと考えています。

フェンダー・ユース・ミュージック・プログラム

このプログラムは、全国の中学校・高等学校における軽音楽部の活動をサポートする取り組みです。応募いただいた中から選定された学校に対し、**ギター、ベース、アンプをはじめとした機材の無償提供**に加え、**現役で活躍するアーティストによる特別音楽レッスン**を実施します。

申請受付期間：2025年6月9日(月)～7月7日(月)

応募条件：以下すべての条件を満たす学校を対象とします

- ①全国中学校・高等学校・特別支援学校（公立・国立・私立含む）
- ②音楽教育または軽音楽部の活動の向上を目的としていること
- ③軽音楽部がある、または今後の設立を予定/検討している学校
- ④上記の条件に該当し、応募時に「音楽教育/軽音楽部に関する質問」を含む全ての設問にご回答いただくこと



詳細、応募はこちらから



FENDER® YOUTH MUSIC PROGRAM

フェンダー・ユース・ミュージック・プログラム

世界的なエレキギター・メーカーのフェンダーが、6月9日のロックの日に、全国の高等学校の軽音楽部を支援する取り組み「フェンダー・ユース・ミュージック・プログラム」を始動！同プログラムを通じて、子どもたちが楽器演奏やバンド活動を楽しみながら、自己表現・協調性・創造力を育む機会を広げるとともに、軽音楽文化の発展と教育現場における実践的かつ持続可能な音楽環境の整備を目指します。

● Fender® Youth Music Program（以下 YMP）の発想はいつ頃、どこから生まれましたか？

フェンダーでは、「To support players at every stage of their musical journey（あらゆるステージのプレイヤーの音楽の旅路をサポートする）」ことを企業ビジョンに掲げており、以前より音楽教育や子どもを対象にした支援に積極的に取り組んでいます。フェンダー設立75周年を迎えた2021年には、周年プロジェクトとして国内で「Fender 75th Anniversary Charity Project - We Love Music」というチャリティプログラムを実施しました。今回の「Fender® Youth Music Program」は、その経験をもとに、より継続的に日本国内の軽音楽部を支援することを目的に企画されたものです。構想自体は以前から進めておりましたが、フェンダーの日本法人設立10周年という節目の今年に、いよいよ本格的に始動する運びとなりました。

● 2021年のWe Love Musicを発展させた感じですか？

「We Love Music」で得られた知見や、実際の学校現場からのフィードバックをもとに、より継続的かつ実効性のある支援を届けられるように企画したのが、今回の「Fender® Youth Music Program」です。単発の取り

組みではなく、今後も継続的に実施していきたいと考えています。

● 校内で部活動を行うのは珍しいですが、YMPは日本国内だけのプログラムですか？

「Fender® Youth Music Program」は日本国内での取り組みです。これは、日本独自の「軽音楽部」文化とその教育的な意義に着目したプログラムであり、日本の中学・高校生に特化した支援を目的としています。

● 具体的には YMP はどんな内容の支援なのか？

選定された学校には、フェンダーのギターやベース、アンプ、アクセサリなど、フェンダーが誇りを持って提供する機材一式を無償でご提供します。これらは、プロのアーティストたちが実際にステージやレコーディングで使用している高品質な楽器・機材であり、初心者にとっても「良い音」や「弾き心地の良さ」を体感するうえで非常に重要な存在です。練習を重ねる生徒たちだからこそ、質の高い楽器に触れることが、その後の成長や意欲にも大きく影響すると私たちは考えています。提供する機材は、各校の状況やご希望に応じて柔軟に決定していきます。また、フェンダーが選定したアーティストによる特別音楽レッスンも実施予定です。実際にバンド活動を通じてキャリアを築いてきたアーティストだからこそ、演奏技術にとどまらず、バンドならではの協調性や創造性、ライブでの心構えといったリアルなアドバイスができると考えています。

● YMP を通じて御社が目指すものは何ですか？

自己表現や協調性、創造性など、音楽やバンド活動を通じて育まれる力を、次世代の子どもたちが軽音楽部の中で自然に身につけられる環

境づくりの向上を目指しています。現在、楽器の価格高騰やアンプ類のメンテナンス・購入のハードル、さらには練習場所の確保といった課題が多いと報告を受けています。そうした現場の声を受け、私たちは少しでも軽音楽部の環境をより良くするサポートができればと考えています。また、軽音楽という文化が教育現場にしっかりと根付き、将来にわたって持続可能な形で受け継がれていくことも、私たちの大きなビジョンのひとつです。

● 軽音協は昨年から国際大会を開催しています。素晴らしい取り組みだと思えます。「Fender® Youth Music Program」としても今後、軽音協の活動と連携していながら、国際的な広がりを含めたサポートができると嬉しいです。

● 希望校はどのようにエントリーすればよいのでしょうか？

フェンダー公式サイト内の特設ページ (<https://jp.fender.com/pages/fender-youth-music-program>) から、学校単位でご応募いただけます。申請は学校職員の方によって行っていただく必要があります。

● 選択の基準はどのようなものなのでしょうか？

全国の中学校・高等学校・特別支援学校を対象とし、軽音楽部の活動向上を目的としていること、今後設立を予定していることなどを基準に、フェンダー社内で選考を行います。公平性を重視し、必要性の高い学校に実効的な支援を届けることを大切にしています。

● 高校に関して言えば、全国4,800校の中の4割強にしか軽音楽部がありません。残りの6割近くの高校ではバンドは学校には相応しくないと誤解されています。しかし、実はバンド

SMART GUITAR NEBULA

Revolution to the Future

ヘッドフォンで演奏が楽しめる 軽音楽部にマッチしたギター

専用アプリ活用のすすめ



NEBULA は、アンプやエフェクター、スピーカーなど、演奏に必要な機材を一台にまとめた「スマートギター」です。電源を入れればすぐに音が鳴る手軽さと、スピーカー／イヤホン／アンプの使い分けが可能な柔軟性を併せ持ちます。アンプやシールドを用意しなくても音を出すことができるため、練習時間や場所を選ばず活用できます。ギター初心者でも扱いやすく、部室に一台あるだけで生徒同士の交流のきっかけにもなり、軽音楽の入り口を広げる存在となるでしょう。

また、チューナーやメトロノーム、リズムマシン、ルーバーといった機能も搭載しており、ギター演奏を支える機能も充実しています。USB-C ポートを活用すれば、パソコンやスマホと接続し、DAW を用いた録音も可能。オリジナル楽曲制作へのハードルを下げる点も見逃せません。

さらに、カーボン素材を採用した軽量・高耐久なボディや、クッション性と収納性に優れた専用ギグバッグも付属しており、学校という環境下でも3年間安心して使用できます。これら NEBULA の基本性能や、軽音楽部での活用のヒントについては前号で詳しくご紹介していますので、ぜひそちらも併せてご覧ください。

アプリで広がる NEBULA の世界

①エフェクトのカスタマイズ機能

NEBULA の専用アプリは、ギターとしての基本性能を大きく拡張する機能を備えています。中でも目玉と言えるのが「エフェクトのカスタマイズ機能」です。本体には最大12種類のプリセットを保存でき、アプリ上でオーバードライブ、ディストーション、リバンプ、ディ

レイ、コーラス、IR（アンプシミュレーター）、EQ、ノイズゲート、NOTCH といった9種類のエフェクトを細かく設定可能。各エフェクトのパラメータは自由度が高く、こだわりの音作りにも十分応えます。また、トーンノブのLEDカラーをエフェクトごとに変更でき、例えば、ディストーションは赤、コーラスは青といった設定が可能。視認性が高まります。

プリセットの順番を変更したり、使用しないプリセットはオフにすることができます。例えば、演奏中に「クリーン」→「ディストーション」→「クリーン」と音色が切り替わる楽曲なら、「クリーン」と「ディストーション」2つの音色だけを本体に保存しておくことで、演奏中にワンタッチで切り替える、という使い方が可能です。工夫次第で様々な可能性を秘めています。

② SoundBank 機能

「できることがたくさんあるけど、どうやって音作りすればいいかわからない」という初心者向けには、SoundBank 機能が役立ちます。世界中の NEBULA ユーザーが作成・公開したプリセットをダウンロードできる仕組みで、自分では思いつかないサウンドに触れたり、定番の音色を参考にしたりと、音作りの幅が広がります。たくさんの音色に触れることで、音楽的な感性も磨かれるでしょう。

③演奏を支える諸機能

アプリを使うことでチューナー・メトロノーム機能も利用できます。チューナーはスマートフォンのマイクを使用し、変則チューニングにも対応。メトロノームもテンポ設定が柔軟で、自主練習時に便利です。

リズムマシン・ルーバー機能も本体操作に加えて、アプリで細かく設定可能です。リズムパ

スピーカー搭載で 面倒な準備をスキップ!



本体には高出力スピーカーを搭載しており、ケーブルやアンプの準備をせずに、すぐに演奏を始めることができます。ノブ操作で内蔵プリセットの切り替えもスムーズに行え、多彩な音色で演奏をお楽しみいただけます。夜間など音量を控えたい場面では、イヤホン接続により静かに演奏することも可能です。

ヘッドフォンをつないで 夜間でも演奏!



夜間などスピーカーで大きな音が出せない環境でも、イヤホンジャックを活用することで静かに演奏を楽しめます。イヤホン使用時もエフェクトが適用され、プリセットの切り替えにより多彩な音色を体感いただけます。音量調整は本体のボリュームノブ、または専用アプリから行うことができます。

豊富なエフェクト& カスタマイズ機能!



本体には、基本となる複数のエフェクトを標準搭載。さらに、専用アプリ「Nashua Guitars」と連携することで、エフェクトの細かな調整やプリセットの命名・クラウド保存が可能です。プリセットごとにトーンノブのカラーも変更できるため、視認性が高まり操作もスムーズ。より直感的に使いこなせます。

豊富な機能 あなたの演奏を



専用アプリと組み合わせることで、チューナーやメトロノーム機能も活用できます。本体から操作できるリズムマシンやルーバー機能も、アプリ上ではさらに細やかなコントロールが可能。自動スタックによるオーバーテープセッションなど、表現の幅を広げ、あなたのクリエイティビティを刺激します。

充電“だけ”ではない USB-Cポートの機能



本体にはイヤホンジャックやフォンジャックに加え、USB-Cポートも搭載。このUSB-Cポートは充電用途にとどまらず、USB OTGに対応しており、PCやスマートフォンと接続することで、オーディオインターフェイスとしても活用できます。自宅録音が、より手軽に実現します。

カーボン素材 軽くて丈夫な



ボディとネックには、軽量で高い耐久性を得るカーボンファイバー素材を採用。湿度や温度変化の激しい日本の気候でも、木材に比べネックの反りが起こりにくく、安定した状態を長く保てます。軽量ボディにより、長時間の演奏でも疲れにくく、快適な演奏性を実現しています。

使いやすい! 高機能ギグバッグ



付属のロゴ入りギグバッグは、厚手でクッション性に優れ、ユーザー目線に立った設計です。エンドピンやヘッド、ブリッジ部分は補強され、持ち運び時の安心です。収納部分も大きく開き、スコアやシールド、ノートPCなどもすっきり収まり、使いやすさと収納力を両立。プレイヤーに寄り添う実用的な仕様です。

4色の カラーバリエーション



仕様

- ボディ：カーボンファイバー
 - ピックアップ：マグネティック・ピックアップ (SSH)
 - スピーカー：5W
 - バッテリー：100時間駆動可能 (6時間充電)
 - スケール：648mm
 - フレット数：22フレット
 - カラー：パールホワイト、ブラック、ライトブルー、イエロー
 - 付属品：ギグバッグ、ギタークロス、USB Type-Cケーブル、Lightning変換コネクタ、USB-A変換コネクタ、レンチ、日本語マニュアル、製品保証書
- 価格：77,000円(税込)

SMART GUITAR NEBULAの7ポイント+2

軽音楽部の夏が始まる！



第7回
高等学校軽音楽コンテスト
関東大会
2025 **7.31** THU 入場無料
12:30-18:30
会場：青葉公会堂



第12回
高等学校軽音楽コンテスト
中部大会
2025 **7.29** TUE 入場無料
12:30-18:30
会場：名古屋文理大学文化フォーラム



第10回
高等学校軽音楽コンテスト
関西大会
2025 **7.27** SUN 入場無料
10:00-17:00
会場：舞鶴市総合文化会館



第2回
高等学校軽音楽文化祭
国際大会
2025 **8.21** THU 入場無料
12:30-18:30
会場：舞鶴市総合文化会館

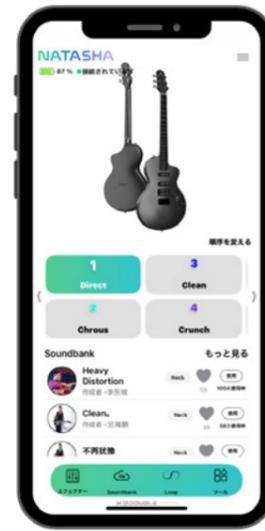
夏休み！自由研究／探究学習 参加無料
音学教室 8.20 WED
会場：舞鶴市総合文化会館 13:00-14:30



白峰・桑島 2025
真夏の音楽祭
民謡（輪踊り）・和太鼓・高校軽音楽
2025 **8.16** SAT 入場無料
11:00-18:00
|
8.19 TUE 入場無料
11:00-18:00
会場：白峰・林西寺



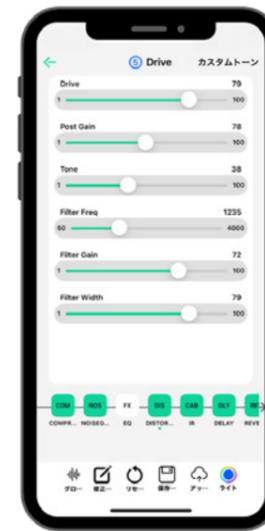
第3回
全国高等学校軽音楽部
**オリジナルソング
グランプリ 2025**
| バンド | 弾き語り | DTM |
| GarageBand | インスト（歌なし） |



▲アプリホーム画面



▲エフェクト選択画面



▲カスタマイズ画面



▲共有プリセット画面

ターンのジャンル選択、自動重ね録り（オーバーダブ）、音量バランスの調整ができ、部活動でのセッションや即興練習にも活用できる自由度があります。創作活動の入口としても有効でしょう。

繋いで広がる制作の可能性

④ USB-C ポートを使った録音機能

最後に、NEBULA は USB-C ポートを通じてパソコンやスマートフォンと接続可能です。DAW ソフト（GarageBand 等）を使った録音が簡単に行えるため、「気軽に録って後で確認」「即興で思いついたフレーズを形にする」というように、オリジナル楽曲制作のハードルが下がります。オーディオ・インターフェイス不要で気軽にレコーディングが始められるのも、部活動に嬉しいポイントです。バンド活動だけでなく、作曲・DTM に関心を持つ生徒にも嬉しい点でしょう。別途、オーディオ・インターフェイスを用意する必要がないため、機材購入の負担も軽く、コスト面でも優れた仕様です。

部活動での活用のヒント

NEBULA と専用アプリは、軽音楽部の日々の活動に「新しい楽しさ」と「広がり」をもたらしてくれる存在です。例えば、部室に1本置いておけば、ギタリスト以外の生徒が「ちょっと触ってみようかな」と気軽に手に取るきっか

けにもなり、コミュニケーションが生まれるかもしれません。スピーカーやイヤホンジャック、バッテリーを内蔵しているため、可搬性に優れ、場所を選ばずに演奏できるのも魅力です。自由な発想や自発的な練習を後押ししてくれるでしょう。

また、アプリと連携することで、エフェクトの音作りにじっくり取り組むこともできます。好みのサウンドを細かく調整したり、トーンノブの色で自分らしさを出したりと、こだわっていく楽しさがあります。機材のことがわからない生徒でも、SoundBank から世界中のプリセットをダウンロードすれば「こんな音もある

のか」と新しい発見につながり、感性を育てるヒントにもなるでしょう。リズムマシンやルーパー、録音機能も充実しているため、個人練習や即興セッション、オリジナル曲の制作にもすぐ活用できます。

さらに NEBULA は、練習用アンプやエフェクターなど、複数の機材を買い揃える必要がなく、コストパフォーマンスにも優れています。限られた予算の中でも導入しやすく、生徒一人ひとりの自由な挑戦や活動の幅を広げる道具として、これからの軽音楽部にぴったり的一本と言えるかもしれません。

文・渡邊寛大

仕様
ボディ：カーボンファイバー
ピックアップ：マグネティック・ピックアップ（SSH）
ピックアップセレクター：5段階
スピーカー：5W
バッテリー：10時間駆動可能（6時間充電）
ペグ：オリジナル密閉型ペグ
ネック：カーボンファイバー
ネックシェイプ：Cシェイプ
スケール：648mm
フレット数：22フレット
付属品：ギグバッグ、ギタークロス、USBType-Cケーブル、Lightning変換コネクタ、USB-A変換コネクタ、レンチ、日本語マニュアル、製品保証書

価格：77,000円（税込）

nebulaguitar.jp



Pop & Rock Music, Jazz

昭和音楽大学 | 昭和音楽大学短期大学部 ポップ&ロックミュージックコース / ジャズコース

オープンキャンパス

昭和音大を体感してみよう!

7/6 Sun 8/2 Sat・3 Sun 他

- コース説明 ●模擬授業 ●キャンパス見学 他

夏期講習会

受験生受講率No.1!! 夏休みにレベルアップ

8/1 Fri ~ 4 Mon

- 実技個人レッスン
- ポピュラー音楽理論
- DTM講座 他

受験講習会

個人レッスンでプロの技を身につけよう!

8/30 Sat 9/20 Sat 10/25 Sat 他

- 実技個人レッスン ●ポピュラー音楽理論 他

アンサンブルセミナー

本学教員がアドバイス!!
ジャムセッションを楽しもう。

9/20 Sat 10/25 Sat 他

体験型オープンキャンパス (ワークショップ)

「Enter the Sound Producer」
～めざせ! サウンドプロデューサー～

サウンドプロデューサーの仕事とは?
コースではどんなことを学ぶの?
益田トッシュ先生が音楽業界のことまで詳しくお話しします!

7/20(日)13:00～

- 楽曲制作ワークショップ「ガレージバンドで作品を作ろう!」
- コース説明
- デモンストレーション
- 個別相談



▶日程や内容は変更となる場合がありますので、詳細や最新情報はウェブサイトをご覧ください。◀



お申込・詳細はウェブで!

お問い合わせ / 入試広報室

0120-86-6606

nyushi@tosei-showa-music.ac.jp
〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-1

オンライン個別相談、実施中! 平日11:00~18:00

本学教員・進学アドバイザーが質問にお答えします。(1回30分程度)

◎希望日の3日前までにお申込ください。

★タイガー大越客員教授は年に数回、特別レッスンを行う予定です。

教員紹介

(2025年6月現在)



軽音協ニュース

SMART GUITAR
NEBULA
Revolution to the Future

ヘッドフォンで演奏が楽しめる
時間や場所を選ばない
新時代のスマートギター

定価: 77,000円(税込)
高機能ギグバッグ付属

nebulaguitar.jp

7つのポイント

- 1. スピーカー搭載で、面倒な準備をスキップ
- 2. ヘッドフォンをつなげば、夜間の演奏も◎
- 3. 豊富なエフェクト群を自由にカスタマイズ
- 4. 演奏をサポートしてくれる様々な便利機能
- 5. USB Type-C 対応でギターへの録音が身近に
- 6. 高温多湿に強く、軽量のカーボン材を使用
- 7. 丈夫で使いやすい高機能なギグバッグ付属



Fender



FENDER YOUTH
MUSIC PROGRAM

フェンダー・ユース・ミュージック・プログラム

このプログラムは、全国の中学校・高等学校における軽音楽部の活動をサポートする取り組みです。応募いただいた中から選定された学校に対し、ギター、ベース、アンプをはじめとした機材の無償提供に加え、現役で活躍するアーティストによる特別音楽レッスンを実施します。

申請受付期間: 2025年6月9日(月)~7月7日(月)

応募条件

以下すべての条件を満たす学校を対象とします

- ①全国中学校・高等学校・特別支援学校(公立・国立・私立含む)
- ②音楽教育または軽音楽部の活動の向上を目的としていること
- ③軽音楽部がある、または今後の設立を予定/検討している学校
- ④上記の条件に該当し、応募時に「音楽教育/軽音楽部に関する質問」を含む全ての設問にご回答いただくこと

詳細、応募はこちらから



次号予告 VOL.87 (7/31 発行予定)

- ・オリジナル楽曲の制作はプロセスが大事
- ・オリジナル楽曲の制作とDTMの取り組み
- ・大会の結果を生徒の次の成長につながる
- ・部活動の地域移行と外部指導員の育成

※予告なく変更になることがあります

編集後記

豪雨や猛暑やら、なんだか梅雨っぽくないですねー。梅雨は東アジア特有の現象らしいですが、もう今は昔なのか…。シトシト雨と紫陽花の組み合わせがけっこう好きだったんですけどね、意外と集中できたりして。(辻 伸介)

夏の大会の本選出場校/バンドが決定しました。今夏もいろいろなバンドの演奏を聴けるのが楽しみです。落選してしまった学校さんも観覧にお越しいただき、たくさん刺激を受けてもらいたいです。(三谷暢之)

アプリと言えば…高校生の頃、勉強記録アプリを使って、友人同士でモチベーションを高め合っていたことを思い出します。記録アプリは自分の軌跡が可視化されるのが好きで、今も観た映画等を記録しています。(渡邊寛大)



RECORDING ENGINEER

ACOUSTIC MEDIA DEPT.



CONCERT STAFF

CONCERT EVENT DEPT.

It all begins here!



DANCER

DANCE PERFORMANCE DEPT.



MUSICIAN

VOCALIST

MUSIC ARTIST DEPT.

オープンキャンパス+体験入学

7/6(日) 13(日) 20(日) 26(土) 27(日)

8/2(土) 3(日) 16(土) 17(日) 24(日) 31(日) 以降随時開催



コンサート・イベント科 職業実践専門課程
●コンサート制作コース ●コンサートPAコース ●コンサート照明コース
●コンサート舞台コース ●イベント企画コース

ミュージックアーティスト科 職業実践専門課程
●サウンドクリエイターコース ●ヴォーカリストコース ●プレイヤーコース

音響芸術科 職業実践専門課程
●レコーディングエンジニア専攻 ●MAエンジニア専攻 ●ラジオスタッフ専攻

ダンスパフォーマンス科 職業実践専門課程(備田校のみ)
●プロダンサー専攻 ●バックダンサー専攻 ●ダンス&ヴォーカル専攻
●コレオグラファー(振付)専攻 ●ダンスインストラクター専攻
●テーマパークダンサー専攻

日本工学院 ミュージックカレッジ

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校



照明

光の演出で多くの観客に感動を届けます



日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校

音楽やエンターテインメントに関する職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょうか。今回は照明にまつわる仕事について、日本工学院専門学校/コンサート・イベント科の島立先生に伺いました。

— 照明にまつわる仕事全般について教えてください

島立：コンサート照明の仕事は大きく3つの過程に分類することができます。

まずは「事前準備」です。コンサートに使用する照明機材の選定や照明を仕込むための図面の作成から取りかかります。本番のセットリスト(曲順)が決まると、曲を事前に聴き込み、大まかな照明のデザインを決めていきます。

次は「本番までの作業」です。準備した図面を基に照明機材を会場へ持ち込み、仕込み作業を行います。明かりの調整やリハーサルを入念に行い、照明の演出を完成させた後に、いよいよ本番を迎えます。

本番終了後は「撤収作業」となります。コンサート終了後に使用した機材を撤収します。このように準備、本番、撤収を繰り返し、コンサートの照明スタッフとして仕事を進めていきます。

— 入学前に、ある程度の知識は必要ですか? 高校時代にやっておいた方がよいことも教えてください

島立：中学校、もしくは高等学校で学ぶ電気の知識を復習しておくといいです。照明の仕事は電気を扱う仕事ですので、電気計算などの基礎知識が必須です。本校でも電気に関連する授業は改めて実施しますが、オームの法則や電力、電圧、電流などがどのようなものであるのか、事前の理解を深めておくことをオススメします。

また、学校の勉強ではありませんが、好きなアーティストやパフォーマンスのコンサートやライブなどの映像(DVDやYouTube)をよく鑑賞し、印象に残った場面や「カッコいい!」「感動した!」といった演出を書き留めてみることもよいですね。その際のアドバイスとして、印象に残った場面では、演者はどのように見えて

いたのか、ステージは照明で何色に染まっていたのかといったことを意識し、鑑賞してみてください。あとは今まで触れてこなかった音楽のジャンルを聴いてみたり、参加したことのないイベントやライブの動画を視聴し、コンサート業界への視野を広げておくことも有効です。

— この仕事の楽しいところを教えてください

島立：アーティストにはコンサートやライブを通して、観客に届けたい気持ちやメッセージがあります。光の演出で、そのお手伝いができることはコンサート照明という仕事の魅力の1つです。アーティストのパフォーマンスと自身がデザインした照明演出が合致し、多くの観客へ感動を届けることができた時は他の仕事にはないようなやりがいや達成感を得ることができると思います。さらに、自分の中のイメージや発想を自由に表現できることも、この仕事の魅力です。

— この仕事の大変なところを教えてください

島立：「光の演出を通して、アーティストのメッセージなどを届けることが楽しい」と述べましたが、実は照明演出を考えることはとても難しく、大変な作業でもあります。自分自身が良いと思った照明演出でも、アーティストが伝えたいものがうまく表現できないことや観客に違和感を与えてしまう場合は演出を考え直さなければなりません。細部までこだわりを持って、適切な演出を考える必要があります。

— この仕事は、どんな人にオススメですか?

島立：光の演出によってコンサートを彩る仕事なので、デザインに興味のある人やクリエイティブなことが好きな人に向いていると思います。また、昨今の照明演出はPCを用いて作業を進めることも多いので、趣味などでPCを使用す

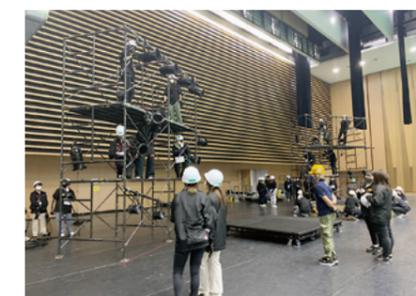
ることが多い人にもオススメです。また、「自分の中のイメージや発想を自由に表現してみたい!」「中学校や高等学校の文化祭や音楽祭などの行事が好き!」といった人にもオススメしています。

— この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか?

島立：1つ目は「コンサート照明が好きであること」です。どの仕事にも同じことが言えますが、楽しいことばかりではなく、時には大変なことや辛いこともあります。それでも「コンサート照明が好き」という気持ちを持ち続けることが、この仕事を続けるのに一番大切であると思います。

2つ目は「協調性」です。コンサートは照明だけでは成り立ちません。アーティストはもちろんですが、制作・舞台・音響など、多くの他セクションのスタッフと1つのコンサートを作っていきます。周囲との協調性、意思疎通や助け合う気持ちがとても大切です。

3つ目は「感受性を高めること」です。コンサート照明は空間を光でデザインする仕事です。会場を夕焼けや星空、あるいは雪景色などに演出することが求められます。例えば、綺麗な夕焼けとは何色なのか、満点の星空はどのような色に染まっているのかなど、普段の生活の中から感じ取ることがとても大切です。



▲片柳アリーナでのイントレ実習

エンタメ&クリエイティブの専門学校



VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

ACADEMY

Akademeia 21st Century



ミュージシャン
声優・俳優・タレント
ダンス・ダンスボーカル
ネットタレント・インフルエンサー
映像クリエイター(3DCG・VFX)
テレビ放送・映画スタッフ
コンサート・舞台スタッフ
レコーディングエンジニア
サウンドクリエイター
映像音響(MAエンジニア)
写真・デザイン
マスコミ出版
芸能マネージャー
特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



仕事は周りの人との対話が大切です

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はサウンドクリエイターの仕事について、専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミーの榎木先生に伺いました。

ー サウンドクリエイターの仕事について教えてください

榎木：「音楽を作る仕事」というのは次の2つに分類することができます。1つは作曲をメインとする「コンポーザー」という職種で、自身の楽曲を制作したり、第三者に提供するなど、純粋に曲を作る仕事のことを言います。もう1つはゲームやアニメをはじめ、映画やCMなど、ある作品に付随した音楽全般を作る仕事で、そこに従事する人たちのことを「サウンドクリエイター」と総称しています。ここ数年、サウンドクリエイターを志望する学生が増えているのですが、人気の背景にあるのは、SNSをはじめとするツールでの「動画投稿」にあると思います。例えば、米津玄師さんが好例だと思うのですが、「良い歌だな…」というところから始まり、「この人はどういう仕事をしているんだろう?」とか「普段は何をやっているんだろう?」という風に調べてみると、自身で歌って、作曲をして、編曲をして、動画を編集して…と、すべてをこなしているんですね。そういった部分からも、サウンドクリエイターという職種が身近に感じられているのではないかと思います。

ー 入学前に、ある程度の演奏スキルや知識は必要ですか?

榎木：専門学校は何も知らない状態で入学しても、しっかりと授業を通じて指導し、卒業させる…というのが1つの目的ですので、特に必須の知識やスキルというのはありません。ただ、「あれば良いな…」というスキルはあって、例えば、パソコンで作曲をするので、パソコンの操作に慣れていないと、最初の段階で戸惑ってしまうかもしれません。音楽ソフトでなくても良いので、「パソコンの基本的な

操作に慣れておく」というのは、やっておいの方が良いと思います。

ー この仕事の楽しいところや、やりがいを教えてください

榎木：音楽が好きで、作曲に興味があって…ということで就職業です。まず仕事そのものが楽しいと思います(笑)。やりがいの部分で言いますと、いろいろな人たちに自身の音楽を聴いてもらうことになるので、そこも楽しいと感じる点ではないでしょうか。

ー この仕事の大変なところを教えてください

榎木：作品に携わるという立場上、「締め切り」のある仕事なので、どうしても時間に追われてしまうという部分では、大変に感じることもあります。また、一から作品を生み出さなくては行けないので、どうしても煮詰まったり、アイデアが思い付かないという時にも大変な思いをすることがあります。

ー この仕事は、どんな人にオススメですか?

榎木：ネットサーフィンが得意な人にオススメです。例えば、何か気になることがあったら調べ物をしたり、物事を掘り下げていける人というのが、作曲の仕事に向いていると思います。というのも、曲が出来上がった、「はい、おしまい」ではなく、そこから何回も「こうしたら良いんじゃないか?」とか「こっちの方がもっと素敵かも…」という風に見直しをしたり、改善を繰り返していくことになります。「はい、曲が完成した!さあ、次だ!」というのではなく、どんどん掘り下げていける人の方が性格的にも合っていると思います。

ー もの仕事が続けるのに大切なことは何で

しょうか。3つほど教えてください

榎木：1つ目は「コミュニケーション能力」です。意外と作曲やモノを作る仕事というのは自分一人でやるイメージがあるかもしれませんが、実はたくさんの人たちとコミュニケーションを取りながら進めていくことになるので、周りの人と対話をしながら仕事にあたるのが大切です。

2つ目は言い方が難しいのですが、「頑固さ」のようなものが必要になります。繰り返しになりますが、いろいろな人たちと関わることになるので、当然、様々な意見を聞くことになります。音楽は人によって捉え方や好みが変わるものなので、その際に自分自身の中に「芯」がないと、「自分はどのような作品を作りたいのか?」ということを見失いがちになるので、そういう意味での、頑固さが必要だと思います。

3つ目は「持続する力」です。ここ数年、サウンドクリエイターの人気が高まっているほか、定年というのがなく、ずっと続けていくことができる仕事なので、人数も増えています。そういった中で、簡単に辞めることはできませんが、ある1つのことがうまくいかなかったからといって、そこですぐに諦めるのではなく、どんどん努力を重ね、ずっと続けていくことが大切なので、持続力も必要な要素の1つだと思います。



▲ゲームやアニメなどに付随した音楽を作る仕事です